

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1990700054		
法人名	身延山福社会		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	山梨県南巨摩郡身延町飯富2288番地		
自己評価作成日	平成24年8月27日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年9月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご家族が参加できる行事を企画し、家族と入居者との絆を深める機会を増やしている。中には地域住民との交流する機会もある。また、地域の清掃活動参加、ボランティアによる外出や、お話し相手のボランティアにも来所していただき、取り組み始めたばかりではあるが、地域に根ざした施設づくりを目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

国道から少し入った住宅地で、まわりに田んぼがある静かな環境の2ユニットの事業所である。すぐ近くに病院があるのも心強い。開所2年目の事業所で設備面に優れ、清掃もゆき届いている。町内で初めてのグループホームであり、町との協力関係も強く、また、法人内の他の事業所との連携・協力体制も取れている。  
 「利用者にとって自由とは何か？馴染みとは何か？」を常に考え、「当たり前の暮らし」の提供に日々心がけている。家族の面会や近所の人々の訪問、社会福祉協議会からのちよいボラ(ちょっとしたボランティア)など、開放された事業所となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームのぞみ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( つくし )	ユニット名( たんぽぽ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は、開設事前研修の際に職員全員で、自分が受けた介護、入りたい施設について話し合い作り上げた理念であり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。また、理念はケアの基となると考え、職員ミーティング時に確認指導している。	当施設の理念は、開設事前研修の際に職員全員で、自分が受けた介護、入りたい施設について話し合い作り上げた理念であり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。また、理念はケアの基となると考え、職員ミーティング時に確認指導している。	地域密着型サービスの意義をふまえた基本理念の4項目を、昼礼時に職員で読み上げている。利用者にとって自由とは何か？馴染みとは何か？を利用者の立場で考え、それを基にして支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のどんど焼きやお祭り、清掃活動に参加したり、ボランティアを募り外出している。また、日常的に近所の方が、農作物を持ってくださり、入居者とお茶を飲みながら会話をされる時間を大切にしている。施設開催の納涼祭にも、太鼓や踊りのボランティアや、地域の皆様が来てくださり交流が持っている。	地域のどんど焼きやお祭り、清掃活動に参加したり、ボランティアを募り外出している。また、施設開催の納涼祭にも、太鼓や踊りのボランティアや、地域の皆様が来てくださり交流が持っている。	自治会に参加し、回覧物はコピーして利用者に見てもらっている。事業所の夏祭りは、地区にチラシを配り、近所の方々や、子供中心の太鼓の参加もあった。また、地域の祭りの時は、神輿が事業所にも来てくれる。小学校から運動会の招待があり、見学するなど地域との交流に心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室などは開けていないが、地域交流(お祭りや清掃活動)の際などに話をさせていただいている。	介護教室などは開けていないが、地域交流(お祭りや清掃活動)の際などに話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、活動内容に加え事故報告を行い助言をいただいている。また、納涼祭について、要望を伺い意見を反映させた。	入居者の状況、活動内容に加え事故報告を行い助言をいただいている。また、納涼祭について、要望を伺い意見を反映させた。	福祉課長・区長・民生委員・家族・管理者・職員利用者と構成され、2ヶ月に1度、平日の午前中に開催している。安全な与薬の為の薬箱の工夫の提言があり、参考になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居、待機者の状況に加え、介護保険の更新申請時の情報提供、また、毎月の機関誌や半年に1度DVDを作成し活動状況を報告している。	入退居、待機者の状況に加え、介護保険の更新申請時の情報提供、また、毎月の機関誌や半年に1度DVDを作成し活動状況を報告している。	町で初めてのグループホームなので、お互いに理解し合える様に努力している。介護度の変更で生じる問題などについても相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、毎月会議で確認している。精神薬で抑えつけることは行われていないが、不適切な言葉遣いや、スピーチロックに関して振り返り、改善案を検討している。	身体拘束廃止委員会を設け、毎月会議で確認している。精神薬で抑えつけることは行われていないが、不適切な言葉遣いや、スピーチロックに関して振り返り、改善案を検討している。	玄関は開放している。外出した利用者を、近所の方が送って来てくれるなどの協力もある。また、2ユニット間で助け合い、利用者が落ち着くまで対応出来る様になっている。スピーチロックについては職員間で注意合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常使う言葉に不適切だと思われることはなかったかケアの振り返りを促したり、不適切なケアが行われた際には指導を行っている。	日常使う言葉に不適切だと思われることはなかったかケアの振り返りを促したり、不適切なケアが行われた際には指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に1名の職員が参加し、復命研修を行っている。	権利擁護の研修に1名の職員が参加し、復命研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書、重要事項説明書、個人情報使用にかかわる同意書、入居者預り金サービス取扱要項について説明し、質問や疑問に思ったことに答えている。また、料金改定の際には、重要事項説明書を改定、説明し同意を得ている。	契約の際は、契約書、重要事項説明書、個人情報使用にかかわる同意書、入居者預り金サービス取扱要項について説明し、質問や疑問に思ったことに答えている。また、料金改定の際には、重要事項説明書を改定、説明し同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( つくし )	ユニット名( たんぽぽ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に関しては、家事作業、余暇活動等要望を聴きながら対応を心がけ、意思疎通が困難な方に対しては、閉じた質問を行い選択していただいている。また、表情や行動などから心情をくみ取るよう指導している。家族に関しては、来所持や電話連絡の際、入居者の近況を伝え意見をいただいている。また、忘年会やバーベキュー大会、納涼祭などの行事の際に意見をいただいている。	入居者に関しては、家事作業、余暇活動等要望を聴きながら対応を心がけ、意思疎通が困難な方に対しては、閉じた質問を行い選択していただいている。また、表情や行動などから心情をくみ取るよう指導している。家族に関しては、来所持や電話連絡の際、入居者の近況を伝え意見をいただいている。また、忘年会やバーベキュー大会、納涼祭などの行事の際に意見をいただいている。	個人的には、プラン作成時に意見を聞いている。行事時などを利用して、気軽に意見を聞いている。忘年会等、家族と一緒に食事をする機会を作って欲しいとの要望があり、実施した。目安箱は、職員に見えない場所においてあるが、特に意見はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その日の出勤者が集まることのできる屋に屋礼を開き、意見交換を行う機会を設けている。また、ユニット会議で上がった意見をリーダー会議で検討、ユニット間で調整を図り、職員会議で決定しケアに反映させている。個人面談を行い意見、また悩みや不満を聴く機会を設けている。	その日の出勤者が集まることのできる屋に屋礼を開き、意見交換を行う機会を設けている。また、ユニット会議で上がった意見をリーダー会議で検討、ユニット間で調整を図り、職員会議で決定しケアに反映させている。個人面談を行い意見、また悩みや不満を聴く機会を設けている。	職員の人数が少ない事もあり、職員はリーダーに、リーダーは管理者に気軽に意見が言える。業務内容は、話し合いで決められる。また、物品購入の要望は自由に出せている。利用者が水分を自由に飲める様にしてはどうかという意見が出て対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスケジュールは過密にならないよう、希望休を聴きながら作成している。また、入居者と完全に離れて過ごす休憩時間を作りリフレッシュできるようにしている。委員会活動は得意分野についてもらい、主体性を持った活動ができるように勧めている。	職員のスケジュールは過密にならないよう、希望休を聴きながら作成している。また、入居者と完全に離れて過ごす休憩時間を作りリフレッシュできるようにしている。委員会活動は得意分野についてもらい、主体性を持った活動ができるように勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修参加を呼びかけ、スケジュール調整しながら、学ぶ機会を作っている。法人内の研修に参加し、参加出来なかった職員に関しては、研修を撮影し、ビデオ研修を行っている。また、業務内では関わり方やケア内容を見ながら、必要時OJTを行っている。	各研修参加を呼びかけ、スケジュール調整しながら、学ぶ機会を作っている。法人内の研修に参加し、参加出来なかった職員に関しては、研修を撮影し、ビデオ研修を行っている。また、業務内では、関わり方やケア内容を見ながら必要時OJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	峡南地域のグループホームで交流会の話があり、近く勉強会を行う予定。	峡南地域のグループホームで交流会の話があり、近く勉強会を行う予定。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、リロケーションダメージを考慮し本人の状況を見ながら、ゆったりと関わり寄り添いの時間を作りなじみの関係ができるよう努めている。また、本人のバックグラウンドから、感情や自分の思いを表出できるような環境づくりを行い関係性が築けるよう努力している。	入居当初は、リロケーションダメージを考慮し本人の状況を見ながら、ゆったりと関わり寄り添いの時間を作りなじみの関係ができるよう努めている。また、本人のバックグラウンドから、感情や自分の思いを表出できるような環境づくりを行い関係性が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接を行い家族の話を知っている。また、入居当初の環境に慣れない時期にあつては本人の生活状況を細かく連絡している。	入居前の面接を行い家族の話を知っている。また、入居当初の環境に慣れない時期にあつては本人の生活状況を細かく連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族はもとより、入居前に受けていたサービス関係者より情報提供を依頼し、ニーズを検討し暫定的なケアプランを作成している。	本人、家族はもとより、入居前に受けていたサービス関係者より情報提供を依頼し、ニーズを検討し暫定的なケアプランを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( つくし )	ユニット名( たんぽぽ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な活動時、その方にできることを役割として一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えるよう指導している。ありがとうと言われるより、職員から感謝の想いを伝えられる機会を多く作るよう指導している。	様々な活動時、その方にできることを役割として一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えるよう指導している。ありがとうと言われるより、職員から感謝の想いを伝えられる機会を多く作るよう指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時家族がご本人にしてあげたいことを伺い、ケアプランに反映させている。また、入居時の居室の環境設定は、本人と家族にお願いし居室づくりを行ってもらっている。	入居時家族がご本人にしてあげたいことを伺い、ケアプランに反映させている。また、入居時の居室の環境設定は、本人と家族にお願いし居室づくりを行ってもらっている。家族との外出時、家族の不安を取り除くため、外出先の利用施設の状況を調べ情報提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が通っていた商店での買い物や、かかりつけの美容院や病院へ出かけ交流している。地域のお祭りに参加したり、家族と過ごせる行事を開き、団らんの時間を作っている。また、本人の希望で自宅訪問を行っている。家族、友人、知人からお届け物があった際は電話を掛ける支援を行っている。	家族との外出時、家族の不安を取り除くため、外出先の利用施設の状況を調べ情報提供している。地域のお祭りに参加したり、家族と過ごせる行事を開き、団らんの時間を作ったり、新盆のための外出支援を行った。家族、友人、知人からお届け物があった際には、電話を掛ける支援を行っている。	利用者1人1人を取り巻く人間関係の把握に努めて対応している。全員にノートを配り、自由に好きな事を書いてもらっている。日記を書いている利用者もいる。ひ孫の運動会に参加する利用者もいる。共有スペースに仏間があり、いつでも拜む事が出来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や相性・行動パターンを考慮しながら、意図的に席を案内したり、様々な作業を協力し合って行うことで、お互いの存在を認め合う環境を作っている。また、作業終了時に集団で行うことの大切さ等を感じることができるような話をする。	個人の性格や相性・行動パターンを考慮しながら、意図的に席を案内したり、様々な作業を協力し合って行うことで、お互いの存在を認め合う環境を作っている。また、作業終了時に集団で行うことの大切さ等を感じることができるような話をする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方に対して手芸の作品やそれまでの生活の様子を収めたDVDを作成し渡した。	入院されている方に対して、時々お見舞いに行き関わっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが図れる方に対しては、個人の思いを聴いたり、漠然として答えられない方に対しては、ご家族に伺ったり、本人のバックグラウンドをもとに、いくつかの選択肢を挙げ、閉じた質問を行い、その返答や表情を見ながら把握に努めている。	コミュニケーションが図れる方に対しては、個人の思いを聴いたり、漠然として答えられない方に対しては、ご家族に伺ったり、本人のバックグラウンドをもとに、いくつかの選択肢を挙げ、閉じた質問を行い、その返答や表情を見ながら把握に努めている。	入所時のアセスメントを基に支援している。利用者それぞれ、俳句を作ったり、縫い物や、読書をしたり、農業をしたい等の思いがあり、家族の協力も得て支援している。何か人の為になる事をしたいという利用者は、自信が持てる様になる役割を決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前の面接を行い、家族の理解があれば、自宅訪問し、これまでの生活環境を拝見させていただいたり、生育歴、生活歴、趣味、趣向等情報を得ている。また、担当のケアマネージャーから本人またサービスの利用状況の情報を得ている。	入居前に事前の面接を行い、家族の理解があれば、自宅訪問し、これまでの生活環境を拝見させていただいたり、生育歴、生活歴、趣味、趣向等情報を得ている。また、担当のケアマネージャーから本人またサービスの利用状況の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の過ごし方をチェックし様々な刺激や事柄による感情、行動の変化を観察し、好みの過ごし方を検討している。また、できる、できない、支援によりできる、わかる、わからない、支援によりわかることをセンター方式のシートを使い検討している。	24時間の過ごし方をチェックし様々な刺激や事柄による感情、行動の変化を観察し、好みの過ごし方を検討している。また、できる、できない、支援によりできる、わかる、わからない、支援によりわかることをセンター方式のシートを使い検討している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( つくし )	ユニット名( たんぽぽ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人、家族より要望や意見を求め、それに基づいて作成している。概ね1ヶ月半経過時に担当職員がモニタリングを行い、実施の有無、できない理由を検討し再アセスメントを行い、満足度を含めたケア内容を検討している。	ケアプラン作成時には本人、家族より要望や意見を求め、それに基づいて作成している。概ね1ヶ月半経過時に担当職員がモニタリングを行い、実施の有無、できない理由を検討し再アセスメントを行い、満足度を含めたケア内容を検討している。	入所時は、今までのサービス提供事業所とケアマネジャーからの情報を基に暫定プランを作成している。アセスメント・モニタリングは関わりの多い担当職員が行ない、利用者や家族の意見も担当職員が聞いている。歌を聞いたり、歌ったりする機会を多くして欲しいなどの意見があった	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個別のケース記録に記入している。その他、各ユニットの日記にて職員間の情報を共有している。	日々の様子やケアの実践は個別のケース記録に記入している。その他、各ユニットの日記にて職員間の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望にて、自宅訪問や近くのお宮さんまでお連れしている。	新盆へ行きたいという要望がありお連れした。家族との旅行時に行先の利用施設の情報を事前に調べ情報を提供、車いすの貸し出しを行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でボランティアを募り、外出の付き添いをしていただいている。	地域でボランティアを募り、外出の付き添いをしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8名の方が入居前からのかかりつけ医に診ていただいている。(1名の方は健康診断を受けたが定期受診の必要がないとのことにて、変化があった際に協力病院に受診している。)家族対応の方には心身の状況(直近1週間のバイタル、食事水分摂取量、排泄状況、および精神面の変化等情報提供し、また受診結果を伺い記録している。	6名の方が入居前からのかかりつけ医に診ていただいている。3名の方は遠方の施設からの転居のため家族の希望もあり転院されている。家族対応の方には心身の状況(直近1週間のバイタル、食事水分摂取量、排泄状況、および精神面の変化等情報提供し、また受診結果を伺い記録している。	施設の往診医はいない。各自のかかりつけ医となっている。定期受診が地域の方との触れ合いの機会となっている。受診は、基本的には家族対応であるが、都合がつかない時には事業所でも対応し、受信結果や次の受診日等の報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置していない。	看護職は配置していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者はいなかった。	入院された場合は、日常生活および心身の状況が把握できるよう情報提供表を渡し、インフォームドコンセントが行われる際には同席し情報交換を行っている。また、毎日面会へ行き入居者および家族の精神面へのケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について伺っているが、現実的にとらえられないのが現状。運営推進会議や体調の変化が見られる際やケアプラン説明時など終末期についても触れ事業所の考えを伝えている。	入居時に終末期のあり方について伺っているが、現実的にとらえられないのが現状。運営推進会議や体調の変化が見られる際やケアプラン説明時など終末期についても触れ事業所の考えを伝えている。	看護師は居ないが、重度化や終末期の対応を行うつもりである。重度化しても対応出来る浴槽の準備がある。	今後、いざという時に、職員が安心して重度化・終末期ケアが行えるように、マニュアルを作成し、研修会を実施する様に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルに沿った研修を行ったが定期的には行っていない。	急変時の対応マニュアルに沿った研修を行ったが定期的には行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( つくし )	ユニット名( たんぽぽ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火非難についてはマニュアルを作成し実際の火事を想定し、避難誘導訓練、初期消火訓練を実施した。地震防災に関しては、防災の日に地域の防災訓練に参加する予定。	防火非難についてはマニュアルを作成し実際の火事を想定し、避難誘導訓練、初期消火訓練を実施した。地震防災に関しては、防災の日に地域の防災訓練に参加する予定。	避難訓練は、利用者が不穏にならない様に、日常生活に配慮した訓練としている。避難場所は駐車場になっている。夜勤は2名でそれぞれの役割が決めている。食品・衛生用品の備蓄は3日分ある。地域の消防団との協力体制がある。	利用者が避難場所を習慣化出来るように日々の中で伝えたり、家族には非常時に速やかな行動が出来る様に、第1・第2の避難場所を知らせておく事を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より、職員には相手の立場に立った声掛け、支援を心がけるよう指導している。特に排泄時や入浴時、また、スピーチロック等には注意するよう働きかけている。	日頃より、職員には相手の立場に立った声掛け、支援を心がけるよう指導している。特に排泄時や入浴時、また、スピーチロック等には注意するよう働きかけている。	ケース記録は棚の中にしまっている。のぞみだよりは、関係者のみに配布している。その人に合った言葉かけを心がけ、排泄の失敗があった時などは、さり気ない対応の工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや夕食の献立など一緒に考えたり、余暇の時間をどう過ごしたいか聞きながら進めている。また、大勢の前で意見や思いを言えない方については、寄り添いながら聞いたり、表情を見ながら進めている。	おやつや夕食の献立など一緒に考えたり、余暇の時間をどう過ごしたいか聞きながら進めている。また、大勢の前で意見や思いを言えない方については、寄り添いながら聞いたり、表情を見ながら進めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活歴、背景を理解し要望をできるだけ聞いて支援している。日課はなく、余暇活動に関しても、その時々で話題に上がったことを個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方については、無理強いせず希望を伺いながら対応している。お茶なども、食事、おやつ以外にも、テーブルにコップとやかんを置き置き、自由に注いで飲めるようにしている。	個人の生活歴、背景を理解し要望をできるだけ聞いて支援している。日課はなく、余暇活動に関しても、その時々で話題に上がったことを個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方については、無理強いせず希望を伺いながら対応している。お茶なども、食事、おやつ以外にも、テーブルにコップとやかんを置き置き、自由に注いで飲めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時におしゃれについて、(好みの色、デザイン・こだわり)などを伺い、意に沿うよう支援している。また、着替えや入浴時など選ぶ方には選んでいただいている。また、化粧品が習慣の方には、化粧品が使えるように支援している。	入居時におしゃれについて、(好みの色、デザイン・こだわり)などを伺い、意に沿うよう支援している。また、着替えや入浴時など選ぶ方には選んでいただいている。また、化粧品が習慣の方には、化粧品が使えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事ケア委員が中心となり、嗜好調査を行い、食事作りに反映させている。また、嫌いな食材については代替えを準備し提供している。食事作りの工程においてその方のできることに着目し役割としておこなってもらっている。	食事ケア委員が中心となり、嗜好調査を行い、食事作りに反映させている。また、嫌いな食材については代替えを準備し提供している。食事作りの工程においてその方のできることに着目し役割としておこなってもらっている。	献立は、利用者の意見等を取り入れて1週間分作成しているが、その日の気候に合わせて変更する事もある。毎日、利用者(1~2名)と買い物に行き、下ごしらえ・盛り付け等の出来る事はしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーや、栄養バランスを視野に入れながら献立を作っている。食事、水分量をチェックしながら摂取量が少ない方に対しては食事時間に限らず摂取していただいたり、その方の食べたい時間にや場所に配慮して提供している。	摂取カロリーや、栄養バランスを視野に入れながら献立を作っている。食事、水分量をチェックしながら摂取量が少ない方に対しては食事時間に限らず摂取していただいたり、その方の食べたい時間にや場所に配慮して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの習慣がない方もおり、毎食後全員の口腔ケアはできていないが、起床時、就寝時は全員行っている。	毎食後口腔ケアを行っている方1名、生活習慣の中に口腔ケアが定着していない方が多く、起床時就寝時の2回となっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員トイレ使用し、尿意、便意を言えない方に関しても、排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、おむつ交換者はいない。	入居者全員トイレ使用し、尿意、便意を言えない方に関しても、排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、おむつ交換者はいない。	各ユニットに、3ヶ所の自動トイレがあり、清潔である。ポータブルトイレも必要な時は使用している。排泄チェック表には水分、食事量・入浴・バイタル・外出等の記録もあり、利用者に応じた適切な対応が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( つくし )	ユニット名( たんぽぽ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	頑固な便秘で緩下剤を服用している方もいるが、食物繊維の多い食材や、水分を多く摂っていただいたり、牛乳、ヨーグルトなどを摂取していただいたり生活の中に体操を取り入れている。また、トイレ内に同行出来る方に関しては、腹圧がかけられるよう声掛けしたり、腹部のマッサージを行い自然排便を促している。	頑固な便秘で緩下剤を服用している方もいるが、食物繊維の多い食材や、水分を多く摂っていただいたり、牛乳、ヨーグルトなどを摂取していただいたり生活の中に体操を取り入れている。また、トイレ内に同行出来る方に関しては、腹圧がかけられるよう声掛けしたり、腹部のマッサージを行い自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴される方もおり、その日その時の入居者の状況に応じて誘い掛けを行っている。隔日のペースで入浴されている。	毎日入浴される方もおり、その日その時の入居者の状況に応じて誘い掛けを行っている。隔日のペースで入浴されている。	午前と午後の毎日入浴対応している。順番は決まっていますが、その日の体調を見ながら決めている。一般浴槽のみでなく重度になっても対応出来る浴槽がある。基本的には同性介護である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の状況から、活動量を調整したり、心身の状況を見ながら適宜休息を勧めている。室温に配慮し、また夜間も適宜水分補給を行っている。また、眠れない原因を考え起因しているものを取り除くようにしている。	1日の状況から、活動量を調整したり、心身の状況を見ながら適宜休息を勧めている。室温に配慮し、また夜間も適宜水分補給を行っている。また、眠れない原因を考え起因しているものを取り除くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書をファイリングし、内容の確認を促している。また、変更があった場合は、申し送りノートおよび受診記録に記入し周知している。投与時は投薬チェック表に記録し、副作用に関しては、観察ポイントを個人別に表し確認している。	内服薬説明書をファイリングし、内容の確認を促している。また、変更があった場合は、申し送りノートおよび受診記録に記入し周知している。投与時は投薬チェック表に記録し、副作用に関しては、観察ポイントを個人別に表し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、生活歴、趣味、趣向、生活習慣を聞き取り、それをもとに余暇活動の支援を行ったり、様々な作業について、できる、わかることをチェックし本人が意欲的に参加できるよう勧めている。	入居時、生活歴、趣味、趣向、生活習慣を聞き取り、それをもとに余暇活動の支援を行ったり、様々な作業について、できる、わかることをチェックし本人が意欲的に参加できるよう勧めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支	県外へのバス旅行を実施した。また、散歩や買い物に関しては、希望者が出掛けられるよう支援している。家族の協力にてかかりつけの美容院へ出かけた。地域の方の協力で行っている。	県外へのバス旅行を実施した。散歩や買い物に関しては、希望者が出掛けられるよう支援している。家族の協力で法事や旅行、お祭りなどに参加されている。地域の方の協力で行っている。	県外へ全員参加で法人のバスを使って出かけた。今後も続けていく予定。町の社会福祉協議会に依頼し、ちょボラ(ちょっとしたボランティア)の付き添いで身延山などに外出した。気候の良い時は農道を散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方1名。その他の方に関しては、家族へ依頼され、施設管理し買物の際に所持し見守りの中で支払を行っている。毎月、個人現金出納票と領収書を送付し確認していただいている。	3名の方は自己管理し、買い物の際にも所持し見守りの中で支払を行っている。その他の方に関しては、家族に依頼され施設で管理し買い物や外出時に所持し見守りの中で支払をしている。毎月個人現金出納票と領収書を送付し確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時や、家族や知人から贈り物があった際など、お礼の電話を掛ける援助を行っている。	要望があった時や、家族や知人から贈り物があった際など、お礼の電話を掛ける援助を行っている。また、家族のお誕生日などにお祝いの電話をかける援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( つくし )	ユニット名( たんぽぽ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に疲労空間となっているが、ベージュ、茶色を基調とし普通の家の内装に近づけている。音に関しては、テレビや音楽は雑音とならないように、観よう、聴こうとしている時に点けるようにしている。また、職員の声掛けや生活音もできるだけ静かにするように指導している。花やグリーンのカーテン(ゴウヤ)を植えたり、季節にちなんだ行事を行っている。	全体的に疲労空間となっているが、ベージュ、茶色を基調とし普通の家の内装に近づけている。音に関しては、テレビや音楽は雑音とならないように、観よう、聴こうとしている時に点けるようにしている。また、職員の声掛けや生活音もできるだけ静かにするように指導している。花やグリーンのカーテン(ゴウヤ)を植えたり、季節にちなんだ行事を行っている。	共用空間は上品で、清潔感があり、落ち着いた雰囲気である。さり気なくおいてある観葉植物にも心が和む。その様な中で料理をする匂いが更に家庭的な感じを漂わせている。共用の仏壇があり、利用者はいつでも手を合わせられ癒しの場となっている。浴室・トイレも新しい設備が取り入れてあり、使いやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仏間前のソファは他の入居者から死角となり、一人になれる空間である。また、ベランダに自由に出ることができ、ベンチでくつろげる。	仏間前のソファは他の入居者から死角となり、一人になれる空間である。また、ベランダに自由に出ることができ、ベンチでくつろげる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、家族の了承を受けた方に関しては、(自宅の)本人の部屋を見せていただき、家具の配置や部屋の雰囲気を感じ取れる機会を作っている。 また、使い慣れたベッド、家具を持ち込んでいただき、本人家族でなじみの環境を作っていたい。	入居前に、家族の了承を受けた方に関しては、(自宅の)本人の部屋を見せていただき、家具の配置や部屋の雰囲気を感じ取れる機会を作っている。 また、使い慣れたベッド、家具を持ち込んでいただき、本人家族でなじみの環境を作っていたい。	カーテンと作り付けのタンス以外は、私物の持ち込みが自由となっている。畳に布団の利用者やベッド使用の方など、一人ひとりの生活に合わせて好みの部屋となっている。希望で鍵をかけている利用者があるが、家族の了解のもとで見守りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	水道の蛇口の操作、衣類ダンスの引き出しなどは、わかりやすいよう簡潔な言語で表示している。	水道の蛇口の操作、衣類ダンスの引き出しなどは、わかりやすいよう簡潔な言語で表示している。		